



第3回九州スーパーシニアカップ

競技報告 (2017/ 3/30)

写真と記事 : M. Kikutake



優勝者を囲んで

78 ストローク (6オーバー)

79 歳の石橋国彦 (福岡国際)

エージシュートを達成して初優勝

第3回九州スーパーシニアカップは3月30日、福岡県の小郡カントリー倶楽部 (6005ヤード、パー72) で行われ、79歳の石橋国彦 (福岡国際) が78のスコアで回り、エージシュートを達成して初優勝した。

最多の77人が参加

距離も伸び、エージシュートは

3人だけ

80歳以上 (今年12月31日現在) のシニアを対象にした大会で、77人 (欠場8人) が出場。昨年まで、梅雨時の6月に開催されていたが、参加者のコンディションを考慮して3月に実施。このため、「九州グランドシニア選手権」の「80歳以上の部」として開かれていた時代から通じて最も多量出場となった。

しかし、ヤーデージは昨年の5695ヤードに比べて距離が延びており参加者はスコアメイクに苦戦。昨年は13人と量産したエージシュートも今年は、優勝した石橋のほかは、80のスコアで2位の82歳、河野信正 (久山) と、33位ながら91で回った93歳の植杉乾蔵 (球磨) の3人だけ。開催コースから記念品が贈られた。





この日の気象は晴れで気温 19.6 度、西南西の風 1.1 ㍓ (正午現在) と絶好のコンディション。そんな中、石橋は前半 3 ボギーの 39 でまわったあと、後半も手堅く 3 ボギーとまとめ、ただ 1 人 70 台をマークする 78 でホールアウトした。2 打差の 2 位の河野はインスタートの出だしでいきなりダブルボギーとし、前半を 41。折り返した後は 1 パーディー 4 ボギーとまとめたが及ばなかった。さらに 1 打差、81 の 3 位は 80 歳の平田晃宏 (若松)。前回優勝の 82 歳、目野邦彦 (小郡) は今回不調で 94 を叩き 45 位。参加最高齢、94 歳の白石清 (久山) は元気にラウンドし、97 のスコアで 59 位だった。

(写真は 2 位の河野信正[㊦]と 3 位の平田晃宏)



石橋国彦

「距離が出らんようになった」と嘆きながらも V

〇…昨年に比べ、ヤーデーが 310 ㍓ 伸びて 6000 ㍓ を超えた。6 年前には脳こうそくを患い、大会 2 週間前には練習場で転んでひざを痛めた。まさに满身創痕。軽めのアプローチとパター練習だけで試合に臨んだが、それでいて大たたきせずスコアをまとめるあたり、さすがと思わせた。

40 代半ばからのゴルフだが、“熱中派、なのか、クラブを握って 3 年で所属する福岡国際 CC のクラブチャンピオンになったほか、1995 年の九州シニア選手権での優勝歴を持つ。ゴルフショップの経営、ゴルフ練習場の支配人などをしながらの競技生活だったが、仕事から引退した現在はもっぱら「楽しむゴルフ」と言う。身体を壊してからは「飛距離が出なくなった」と嘆くが、定評がある「曲がらないゴルフ」は健在。飛ばなくても確実にまっすぐ前に進むゴルフ。それをこの日の試合で証明して見せた石橋だ。



1462 回目のエージシュートの植杉乾蔵

〇…昨年この大会後、風邪をひいて肺炎症状を起こし、2 か月ほどラウンドができなかった。日頃から、「コースが病院」「コースがリハビリ」と言っではばからなかった植杉にとって苦しい 2 か月だったろう。しかし、復帰してからは、ゴルフも順調に回復しているようだ。昨年の大会前、1432 回を数えていたエージシュートが、復帰してから 30 回を数え、通算 1462 回になった。

昨年はチェリーゴルフ人吉 (熊本県相良村) の理事長にもなった。この年になると、「一年一年が体力との勝負」と言い、今後の目標も明確な答えは出なかった。しかし、「せめて 1500 回は出したいですね」と水を向けると、大きくうなずいた。93 歳。この人にはまだまだ “やる気、” があるようだ。

「同伴者と楽しく、がゴルフの醍醐味」と白石清

〇…参加者の最高齢、94 歳の白石清。ホールアウトすると、「今日は足がガタガタやった。キャディーさんから、歩け、歩け言われた」と汗をぬぐった。

94 歳にして 100 を切るスコアで回り、周囲の同輩の「目標」にもされる人だ。ゴルフの楽しみは、と問うと「同伴競技者と楽しくゴルフをするのが醍醐味です」と。この日は残念ながら達成できなかったが、エージシュートもこれまでに計 249 回のキャリア。「今年もすでに 2 回した」そうだ。